CSW 活動報告書

令和３年度（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

C こまったときの **S** そうだんは **W** わたしたちへ

所沢市社会福祉協議会
地域福祉推進課

目　　次

■はじめに …… 2

■コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは …… 3

■CSW 活動報告

Ⅰ　相談集計表 …… 5

Ⅱ　地区別支援回数（個別支援・地域支援） …… 8

Ⅲ　地域の実態把握及び支援 …… 10

■まとめ

Ⅰ　相談件数等から見る考察 …… 13

Ⅱ　コロナ禍による CSW の取り組み …… 13

Ⅲ　CSW の取り組み …… 15

■令和３年度 CSW 地域アセスメントシートの更新 …… 18

■はじめに

新型コロナウイルス感染症の長期化により、暮らし向きが悪化した人々の社会的な孤立・孤独の問題が深刻になっています。このような状況は、地域とのつながりがなく、誰にも助けを求められない人々を生み出します。こうした中 CSW は、経済的に困窮している世帯を対象に地域のボランティアや関係機関と連携し、こども食堂等に食料品をお届けし必要な支援を行いました。また、高齢者がコロナウイルスのワクチン接種の予約が難しい状況が続いていたことから、まちづくりセンターと連携しＣＳＷがタブレット端末を持参して各まちづくりセンターに駆付け、ワクチン接種の予約支援等、コロナ禍で困っている市民のニーズに機敏に対応してきました。

所沢市社会福祉協議会では、平成 28 年から CSW を市内全地区に配置し、地域に出向き個別の相談に寄り添い困りごとを把握し、専門機関や地域のボランティア団体などにつなげてきました。個別支援から把握した課題を地域の課題として捉え、既存の制度やサービスにつなげられない場合は、民生委員・児童委員、地域福祉サポーター、住民等と連携・協働し、支え合いの地域づくりを推進してきました。

新型コロナウィルスによる感染症の長期化や少子高齢化、人口減少とともに、地域や家族などの共同体機能が脆弱化する中で、地域のネットワークを土台に地域生活の課題を早期に発見し、必要なサービスに繋いでいく機能が求められます。これからも CSW は地域に出向き、様々な活動をされている方々の想いを大切にしながら、関係者や組織・団体と協働する「連携・協働の場」としての役割を十分に発揮し、地域共生社会の実現を推進していきます。

本報告書が CSW の活動について広く市民の皆様の理解を広げ、支え合いのまちづくりを住民や関係機関・団体の皆様とともに一層進めるきっかけとなれば幸いです。

ＣＳＷ 報告書発行に寄せて

所沢市社会福祉協議会　地域福祉活動推進会議　委員長
東京通信大学人間福祉学部人間福祉学科　教授
田中　英樹

地域社会を基盤とした福祉（地域福祉）の進展は、国や自治体が制定する制度・政策及びその実施事業やサービスを基本としています。21 世紀に入り、介護保険法や障害者総合支援法、生活困窮者自立支援法を始め、多くの福祉制度が新たに制定されてきました。しかし、それだけで地域福祉が充実するものではありません。地域で暮らす住民が自ら福祉に関心を持ち、生活上の困りごとを表明し、そして周りを気に掛けることも必要でしょう。そうした住民の思いを受けとめ、励まし、一緒に相談に乗ってくれる地域の福祉リーダーや福祉専門職も必要です。

所沢市では、社会福祉協議会が取りまとめ役となって、地域福祉活動計画「ところ WITH プラン」という民間活動計画をいち早く作成し、その活動の柱の一つに地域福祉サポーターの養成とコミュニティソーシャルワーカー（CSW）の地区配置を進めてきました。また、所沢市も令和 3 年度から「SMILE プラン」を策定し、協働で地域福祉の充実をめざしてします。

地域福祉サポーターは、住民の立場から民生委員・児童委員や地域のボランティア団体の方々とも協力し、それぞれの地域で福祉ニーズを発見し、その解決をめざして活躍しています。CSW は所沢市社会福祉協議会の職員です。アウトリーチ活動を中心に、住民に寄り添い、解決に必要な資源や機会を工夫・創出し、あるいは情報や支援する人々に結びつけ、住民の護民官として日々仕事をしています。

そうした活動を文字化し、見える化し、実績を積み重ねていく貴重な臨在の証人が「CSW 報告書」です。CSW の活動が地域社会に浸透し、評価され、さらに人的にも厚みを増し、質的にも高まることによって、所沢の地域福祉が更なる充実に向かうことを関係者の一人として期待してやみません。

■コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは

地域を基盤として活動し、地域の中で支援につながらず困っている方を発見し、支援します。従来の制度や法の枠組みの中では十分に対応できない、いわゆる「制度の狭間」で困りごとを抱える人に寄り添いながらニーズの共通性に着目し、地域の生活課題の解決に向けて、地域住民と協働して新しい仕組みづくりに取り組む専門職です。

◎市内11行政地区ごとに担当CSWを配置しています。

CSWの主な活動

キャッチフレーズ

ささえる　つながる　みつけだす

●ささえる

コロナ禍の収束が見えない中、生活困窮、活動の場が見つからずひきこもりの状態が続いている方、誰にも相談できず声を上げることができない方へのアウトリーチ支援など、自治会・民生委員・児童委員・ボランティア等の地域住民と協力しながら、課題の解決に向けて一緒に取り組んでいます。また、所沢市こどもと福祉の未来館・1階に設置する福祉の相談窓口担当職員の他、必要に応じて福祉・保健・教育等関係機関とも連携して支援しています。

※1　アウトリーチ…積極的に対象者の居る場所に出向いて働きかけること。

【生活上の様々な困りごと・課題の例】

- 長い間自宅に引きこもっていて、一歩を踏み出せない
- たくさんの問題を抱え、どこに相談していいのかわからない
- 生活に困窮し精神的にも疲弊している。
- 加齢による体力低下や認知症のため身の回りのこと（買物・掃除・ゴミ出し等）ができなくなる
- 介護（若い世代による介護負担含む）や育児によるストレス、虐待等

●つながる

地域の中で活動することを通して、地域住民の声をもとに、自らSOS を発信できない方や、社会的孤立により支援につながらない方等を、問題が重篤化する前に発見し、必要なサービスへつなぎます。

また、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、住民活動による支援とつながるようサポートを行い、必要に応じて他専門機関につないで行きます。

このように、ＣＳＷは人と人をつないだり、人と情報をつないだり、様々な場面で「つなぐ」役割を担っています。

【CSWがつなぐ住民活動の例】

- ボランティア活動・サークル活動
- 高齢者サロン・子育てサロン・多世代型サロン
- こども食堂・学習支援、フードパントリー　等

●みつけだす

地域で開催される会議体や相談会に参加するとともに、地域の中で心配な方や気になる方と ＣＳＷがつながれるように、相談会の開催や日頃からの関係づくり、周知活動を行っています。

また、様々な会議の場や情報交換等を通じて、地域課題の把握にも努めています。

【会議体や相談会の例】

- 地域づくり協議会・地区社協との連携・協働
- 地域ケア会議への参加
- 住民懇談会など福祉情報交換会の開催
- 各地区の身近な相談窓口の設置　等

令和４年度各地区 CSW 配置図

所沢社協だより No.103 より

■CSW活動報告

CSWは、誰もが安心して地域で暮らせるように民生委員・児童委員やボランティア等の各種関係機関・団体の皆様、自治会・町内会、地域づくり協議会等の皆様と連携し、居場所づくりや支え合いの仕組みづくりを行っています。

Ⅰ　相談集計表

この表は、令和3年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日）に、CSWが対応した相談件数、相談対象者の種別及び年齢層、相談方法、相談内容を集計したものです。

【 総合的福祉相談（個別相談支援、被災者支援、その他） 】

	令和3年度	令和2年度
個別相談支援	3,748	2,911
被災者支援	4	4
その他	9	288
合計（延べ件数）	3,761	3,203

【 相談対応件数 】

	令和3年度	令和2年度
新規相談	636	506
継続相談	3,125	2,697
合計	3,761	3,203

【 対象者種別 】

	延べ件数	構成比
高齢者	1,156	30.8%
障害者	548	14.6%
こども	299	8.0%
生活保護	174	4.6%
施策利用なし	679	18.0%
団体等	6	0.2%
その他	899	23.8%
合計	3,761	100.0%

【 相談方法 】

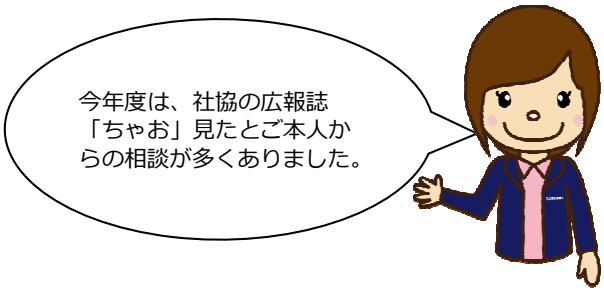
	令和3年度		令和2年度	
	延べ件数	構成比	延べ件数	構成比
電話相談	1,927	51.2%	1,806	56.4%
訪問	739	19.6%	533	16.6%
来所	394	10.5%	316	9.9%
相談会	132	3.5%	96	3.0%
出先にて	444	11.8%	258	8.1%
その他	125	3.3%	194	6.1%
合計	3,761	100.0%	3,203	100.0%

【 相談者 】

	令和3年度		令和2年度	
	延べ件数	構成比	延べ件数	構成比
本人	2,720	72.3%	1,739	54.3%
民生委員	193	5.1%	146	4.6%
家族	244	6.5%	248	7.7%
関係機関	417	11.1%	857	26.8%
近隣住人	85	2.3%	99	3.1%
その他	102	2.7%	114	3.6%
合計	3,761	100.0%	3,203	100.0%

【 対象者 】

	令和3年度		令和2年度	
	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数
0～9歳	105	39	106	46
10～19歳	106	22	228	17
20～29歳	110	22	61	17
30～39歳	270	24	221	27
40～49歳	624	43	452	22
50～59歳	485	44	465	50
60～64歳	360	19	110	11
65～70歳	113	16	159	18
70～74歳	232	31	99	19
75歳以上	452	64	814	80
年齢不明	904	233	488	50
合計	3,761	557	3,203	357



【 相談内容 】

	相談内容	令和3年度		令和2年度	
		延べ件数	構成比	延べ件数	構成比
1	サービス利用	84	2.2%	154	4.1%
2	病気	238	6.3%	145	3.9%
3	けが	30	0.8%	28	0.7%
4	障がい（手帳有）	221	5.9%	185	4.9%
5	障がい（疑い）	151	4.0%	91	2.4%
6	メンタルヘルスの課題（うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など）	417	11.1%	229	6.1%
7	自死企図	11	0.3%	2	0.1%
8	住まい不安定	63	1.7%	27	0.7%
9	ホームレス	3	0.1%	2	0.1%
10	経済的困窮	376	10.0%	281	7.5%
11	（多重・過重）債務	21	0.6%	8	0.2%
12	家計管理の課題	133	3.5%	48	1.3%
13	就職活動困難	48	1.3%	54	1.4%
14	就職定着困難	14	0.4%	24	0.6%
15	生活習慣の乱れ	239	6.4%	276	7.3%
16	社会的孤立	351	9.3%	367	9.8%
17	家族関係・家族の問題	273	7.3%	286	7.6%
18	不登校	68	1.8%	70	1.9%
19	ふくし学習（初回相談のみ）	18	0.5%	20	0.5%
20	中卒・高校中退	0	0.0%	1	0.0%
21	ひとり親	107	2.8%	26	0.7%
22	ＤＶ・虐待	59	1.6%	23	0.6%
23	外国籍	35	0.9%	42	1.1%
24	刑余者	0	0.0%	1	0.0%
25	コミュニケーションが苦手	24	0.6%	16	0.4%
26	能力の課題（識字・言語・理解等）	16	0.4%	24	0.6%
27	被災	4	0.1%	4	0.1%
28	介護	97	2.6%	107	2.8%
29	育児	134	3.6%	42	1.1%
30	性別（ＬＧＢＴＱ）	1	0.0%	0	0.0%
31	地域との関係	129	3.4%	75	2.0%
32	その他	9	0.2%	288	7.7%
33	ボランティアしたい	294	7.8%	176	4.7%
34	ボランティアしてほしい	93	2.5%	81	2.2%
	合計	3,761	100.0%	3,203	100.0%

【 対象者年代別相談者 】

	相談内容（対象者との関係）						
対象者年代	本人	民生委員	家族	関係機関	近隣住人	その他	合計
0～9歳	89	0	3	11	0	2	105
10～19歳	62	5	21	9	0	9	106
20～29歳	80	2	5	22	0	1	110
30～39歳	206	41	6	16	0	1	270
40～49歳	474	19	28	82	5	16	624
50～59歳	376	30	7	45	10	17	485
60～64歳	264	11	41	40	3	1	360
65～70歳	84	3	4	18	2	2	113
70～74歳	141	15	21	38	8	9	232
75歳以上	317	13	59	31	15	17	452
年齢不明	646	55	45	91	44	23	904
合計	2,739	194	240	403	87	98	3,761

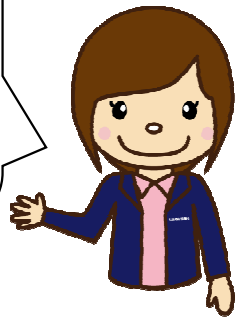
相談集計表

【 対象者年代別主な相談内容 】

年代 対象者	相談内容																																	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	総計
0～	1	1	0	0	3	30	1	0	0	10	0	0	1	0	2	6	18	4	3	0	2	1	0	0	0	0	0	4	7	0	2	0	7	2	**105**
10～	1	0	0	6	0	3	0	0	0	11	0	8	0	0	3	22	17	12	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	15	6	**106**
20～	0	2	0	1	3	16	0	0	0	11	0	1	5	3	1	9	7	0	0	0	4	3	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	36	3	**110**
30～	1	6	8	12	8	23	1	2	1	44	0	7	14	4	9	11	14	1	0	0	31	3	30	0	1	1	0	0	17	0	0	0	15	6	**270**
40～	9	48	1	100	16	77	4	5	0	80	2	22	6	1	48	39	31	20	0	0	40	2	0	0	12	0	0	7	16	0	2	0	29	7	**624**
50～	2	26	3	17	34	101	3	6	0	52	4	7	16	1	55	47	22	2	0	0	7	4	0	0	4	0	0	7	11	0	19	0	26	9	**485**
60～	8	56	11	21	10	13	0	14	1	32	0	39	0	1	44	62	17	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	2	0	1	7	1	6	9	**360**
65～	5	10	0	4	1	25	0	1	0	10	3	3	0	0	8	19	12	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	9	0	**113**
70～	4	9	0	9	9	49	0	8	0	31	6	6	0	0	24	20	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	12	0	0	22	0	14	2	**232**
75～	22	42	2	2	39	34	0	24	0	33	5	25	3	1	12	53	47	14	0	0	1	16	0	0	0	9	0	37	3	0	9	3	12	4	**452**
不明	31	38	5	49	28	46	2	3	1	62	1	15	3	3	33	63	84	15	15	0	20	29	5	0	7	2	1	26	75	0	67	5	125	45	**904**
合計	**84**	**238**	**30**	**221**	**151**	**417**	**11**	**63**	**3**	**376**	**21**	**133**	**48**	**14**	**239**	**351**	**273**	**68**	**18**	**0**	**107**	**59**	**35**	**0**	**24**	**16**	**4**	**97**	**134**	**1**	**129**	**9**	**294**	**93**	**3,761**
構成比	2.2%	6.3%	0.8%	5.9%	4.0%	11.1%	0.3%	1.7%	0.1%	10.0%	0.6%	3.5%	1.3%	0.4%	6.4%	9.3%	7.3%	1.8%	0.5%	0.0%	2.8%	1.6%	0.9%	0.0%	0.6%	0.4%	0.1%	2.6%	3.6%	0.0%	3.4%	0.2%	7.8%	2.5%	100.0%

1 サービス利用
2 病気
3 けが
4 障がい（手帳有）
5 障がい（疑い）
6 メンタルヘルスの課題（うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など）
7 自死企図
8 住まい不安定
9 ホームレス
10 経済的困窮
11 （多重・過重）債務
12 家計管理の課題
13 就職活動困難
14 就職定着困難
15 生活習慣の乱れ
16 社会的孤立
17 家族関係・家族の問題
18 不登校
19 ふくし学習（初回相談のみ）
20 中卒・高校中退
21 ひとり親
22 ＤＶ・虐待
23 外国籍
24 刑余者
25 コミュニケーションが苦手
26 能力の課題（識字・言語・理解等）
27 被災
28 介護
29 育児
30 性別
31 地域との関係
32 その他
33 ボランティアしたい
34 ボランティアしてほしい

40代、50代の方から、メンタル面のご相談が多くありました。CSWは、適切な専門職につなぎ、安心して生活できるよう地域の皆様と共に支える活動を行っています。



Ⅱ　地区別相談支援回数（個別相談支援・地域相談支援）

CSWによる個別相談支援や地域相談支援を地区ごとに集計したものです。なお、個別相談支援とは、複合的かつ多様な相談に対応し、関係機関や団体等と連携して支援したものです。地域相談支援とは、地域の課題を地域の中で解決できるように仕組みづくりを支援したものです。

順位別相談支援内容（R03.04～R04.03）

【所沢地区個別相談支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	44	こども食堂
2	38	今後の対応についての相談・打ち合わせ
3	31	引きこもり
4	21	関係者との情報共有
5	19	ごみ屋敷

【所沢地区地域相談支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	31	こども支援（こども食堂・学習支援）
2	12	地域福祉サポーターの取り組み
3	11	社協が運営する拠点活動
4	7	地域の居場所（サロン・体操等）
4	7	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議

【松井地区個別相談支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	70	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	25	ボランティア活動をしたい
3	20	安否確認
4	16	関係者との情報共有
5	9	ひとり親

【松井地区地域相談支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	24	ふくし学習（学校関係）
2	20	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
2	20	ふくし掲示板管理
4	19	地域の居場所（サロン・体操等）
5	17	こども支援（こども食堂・学習支援）

【柳瀬地区個別相談支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	12	孤立
1	12	家族関係
3	9	今後の対応についての相談・打ち合わせ
4	8	どこに相談したらいいか
5	5	病気

【柳瀬地区地域相談支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	39	こども支援（こども食堂・学習支援）
2	27	地域の居場所（サロン・体操等）
3	13	地域行事への参加・協力
4	7	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
4	7	個別・相談援助

【富岡地区個別相談支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	27	どこに相談したらいいか
2	22	今後の対応についての相談・打ち合わせ
3	17	関係者との情報共有
4	14	今後の不安
5	8	家族関係

【富岡地区地域相談支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	33	地域の居場所（サロン・体操等）
2	21	相談会の開催
3	19	掲示板
4	8	ふくし学習（学校関係）
5	6	人材育成・講座・学習等（学校関係以外）

【新所沢地区個別相談支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	22	どこに相談したらいいか
2	21	ボランティア活動をしたい
3	17	関係者との情報共有
4	12	経済困難
5	10	ボランティア要請

【新所沢地区地域相談支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	15	地域の居場所（サロン・体操等）
2	14	会議
3	11	地域福祉サポーターの取り組み
4	10	相談会の開催
5	7	地域からの問い合わせ・対応

【新所沢東地区個別相談支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	33	関係者との情報共有
2	19	ボランティア活動をしたい
3	15	今後の対応についての相談・打ち合わせ
4	12	どこに相談したらいいか
5	11	孤立

【新所沢東地区地域相談支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	16	社協が運営する拠点活動
2	14	地域の居場所（サロン・体操等）
3	11	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
4	10	ふくし学習（学校関係）
5	7	こども支援（こども食堂・学習支援）

【三ヶ島地区個別相談支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	33	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	19	ボランティア活動をしたい
3	9	近くで通える場を知りたい
3	9	孤立
3	9	どこに相談したらいいか

【三ヶ島地区地域相談支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	31	こども支援（こども食堂・学習支援）
2	12	地域からの問い合わせ・対応
3	10	地域の居場所（サロン・体操等）
4	9	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
5	7	掲示板

【小手指地区個別相談支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	47	近隣トラブル
2	46	今後の対応についての相談・打ち合わせ
3	27	ボランティア活動したい
4	25	どこに相談したらいいか
5	22	実施方法についての相談

【小手指地区地域相談支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	24	こども支援（こども食堂・学習支援）
2	22	地域の居場所（サロン・体操等）
3	14	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
4	10	相談会の開催
5	6	ふくし学習（学校関係）

【山口地区個別相談支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	45	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	42	家族関係
3	17	孤立
4	15	どこに相談したらいいか
5	14	ボランティア活動をしたい

【山口地区地域相談支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	19	こども支援（こども食堂・学習支援）
2	16	相談会の開催
3	8	ふくし学習（学校関係）
4	5	地域からの問い合わせ・対応
4	5	会議

【吾妻地区個別相談支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	29	今後の対応についての相談・打ち合わせ
2	24	ごみ屋敷
3	11	病気
3	11	どこに相談したらいいか
5	10	関係者との情報共有

【吾妻地区地域相談支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	10	ふくし学習（学校関係）
2	9	こども支援（こども食堂・学習支援）
3	4	地域福祉サポーターの取り組み
4	3	地域の居場所（サロン・体操等）
5	2	ふくし掲示板管理

【並木地区個別相談支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	27	こども食堂
2	25	関係者との情報共有
3	19	引きこもり
4	18	今後の対応についての相談・打ち合わせ
4	18	ボランティア活動をしたい

【並木地区地域相談支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	64	相談会の開催
2	44	こども支援（こども食堂・学習支援）
3	38	地域の居場所（サロン・体操等）
4	25	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議
5	17	ふくし学習（学校関係）

【市内全域地区個別相談支援順位】

順位	支援回数	主な相談内容
1	12	ボランティア活動をしたい
2	5	ボランティア要請
3	4	寄付
4	2	今後の対応についての相談・打ち合わせ
4	2	その他

【市内全域地区地域相談支援順位】

順位	支援回数	主な支援内容
1	23	会議
2	21	ＳＣ業務　関係機関との調整
3	15	こども支援（こども食堂・学習支援）
4	12	第1層ＳＣでカウント：第２層ＳＣへの支援
5	11	地域福祉サポーターの取り組み

※ＳＣ…生活支援コーディネーター（高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進しえいくことを目的とし、地域において、生活支援及び介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能を果たす者）

Ⅲ　地域の実態把握及び支援

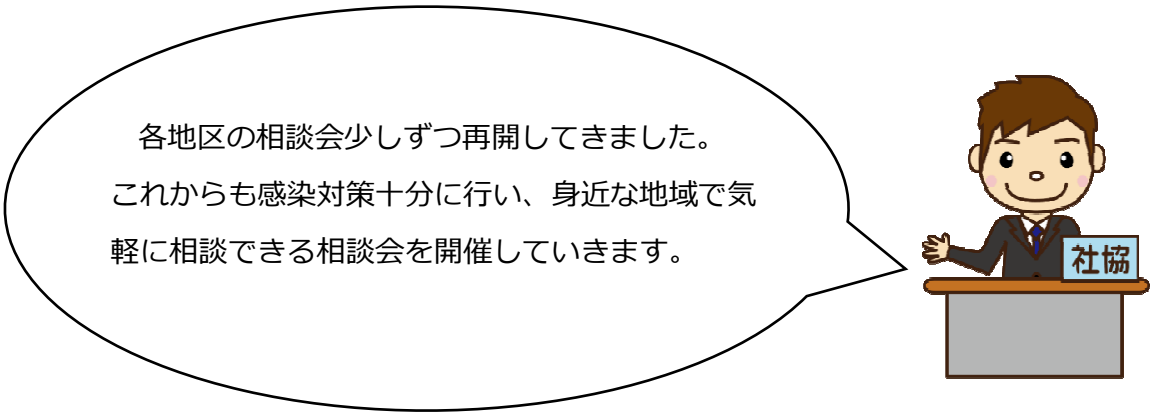
CSWは個別の相談対応や、地域の強みや課題、社会資源等の実態把握を行い、ふくしのまちづくりに向けた様々な支援を行っています。そして、個別の支援から見えてくる地域のニーズを地域住民や関係団体等と解決に向けた話し合いや活動を通じて、地域のつながりづくりや支え合いの仕組みづくりを進め、地域の福祉力の向上を図っています。

この表は、CSWが各地域の状況を分析し、それぞれの地域のニーズに合わせ、地域に出向いて行った主な支援内容を集計したものです。令和３年度は、昨年度に引き続き新型コロナ感染症の収束が見えない中、ＣＳＷとして各地域に出向き、何ができるのだろうかと模索した１年でした。まずは、地域に出向き、住民が身近な地域で気軽に相談できる相談会を各地区において８３回開催し、個別の相談や地域の困りごとを改めて聞く機会を設けました。

そして、少しずつですが地域住民の皆様と共にできることから始めてみようと、フードパントリーや学習支援等の居場所も新たに立ち上がりました。

【地域づくりに向けた支援】

順位	主な内容	令和3年度	令和2年度
1	相談会の開催	83	30
2	地域の居場所（サロン・体操等）	58	59
3	こども支援（こども食堂・学習支援）	54	56
4	ふくし学習（学校関係）	25	20
5	地域づくり協議会・自治連・地区社協・民児協等の会議	20	32



【各種取り組みの様子】

CSW会議

ほのぼのサロン（サロン活動）

とんぼハウス（こども食堂）

地域福祉ｻﾎﾟｰﾀｰ講座

社協の活動拠点　ぴーす

ぽかぽかスカイ（地域の居場所）

ふくし学習

すずかめこども食堂

街頭募金

ヤングケアラー講演会

スマホ教室

■　まとめ

Ⅰ　相談件数等から見る考察

令和３年度は総合的な相談が、前年度比８３７件増となりました。これは、相談会やサロンが再開し始めたことによるものです。

複合的な課題により、すぐに解決に至らないケースが多く、継続相談も前年度比４２８件増となりました。

相談内容別の順位で最も多いのが、『メンタルヘルスの課題（うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など）（４１７件）』となりました。次いで、『経済的困窮（３７６件）』、『社会的孤立（３５１件）』、『ボランティアがしたい（２９４件）』と続きます。

『メンタルヘルスの課題』は、前年度比１８２%の相談件数となっており、新型コロナウイルスの拡大が１年を経て、メンタルへの影響が顕著になってきたものと考えられます。４０代５０代の相談件数が多く、全世代の４３%を占めており、社会的状況により思うように働くことができず、経済的貧困に陥り、孤立してしまうなど、就業上の悩みや経済的な不安など、他の相談内容とも関連しています。

また、『ボランティアしたい』という声も数多く、各地区において、自分達に何かできることはないかと、こども支援や地域の居場所づくりの立ち上げや再開に関する相談が数多く寄せられました。

このように長引く新型コロナウイルスの感染拡大の収束の兆しが見えない中、多種多様な相談があり、CSW だけでは解決できないケースもあり、福祉の相談窓口職員や他職種機関と連携しながら必要に応じた支援を行う事も多い一年でした。

Ⅱ　コロナ禍によるCSWの取り組み

（1）コロナ禍による困窮世帯への支援

コロナ禍における経済的に困窮している世帯を対象に、「愛の福祉基金」を活用し、民生委員・児童委員や地域のボランティア等と連携し、CSWが食料品をこども食堂等にお届けし必要な支援を行いました。また、第5波以降、市内においても自宅療養者が急増しました。食糧の購入が困難な世帯については、県が行っている配食サービスがありますが、自宅に届くまでに日数を要してしまう状況でした。

そこで、食料品を所沢市危機管理室に提供し、県の配食サービスが提供されるまでの間、希望する自宅療養者に食料品をお届けすることができました。

こども食堂を利用している
小学生に食品を提供

ひとり親家庭の母親に
食品を提供

（2）ワクチン接種の予約支援

令和３年５月に高齢者がスマートフォン等による新型コロナウイルスのワクチン接種の予約が難しい状況が続いていました。まちづくりセンターでは、高齢者の予約支援を行うことになっていましたので、まちづくりセンターと連携し、CSWがタブレット端末を持参して各まちづくりセンターに駆け付け、ワクチン接種の予約支援を行いました。

（3）つながりを絶やさないための情報発信

昨年に引き続き、どうしたら地域の中でつながりを絶やさずに暮らせるか、ＣＳＷの中で話し合いを重ね、SNSや動画を活用した情報発信を行いました。

スマホ等を上手く利用できる方がいる一方で、インターネットを利用できる環境の無い方や操作の苦手な方がいました。そこで、企業の協力を得て生活支援コーディネーターと共に各地域で「スマホ教室」を開催しました。

また、CSWが地域に出向き、地域活動の場や会議、ふくし掲示板等を活用し、必要な情報を発信しました。

（4）コロナ禍でのふくし学習

学校での「ふくし学習」にCSWとしても推進しています。CSWが「ふくし学習」に関わることで、学校のニーズに加えて、地域の課題に対応するテーマを取り入れる他、地域のネットワークを活かし、CSWが地域と学校のつなぎ役として重要な役割を担っています。

新型コロナウイルスの影響を受け、外部講師や地域ボランティア等の受入れが困難となり、中止せざるを得ない状況が続いていました。CSWとして、地域福祉を推進していく上で「ふくし学習」は欠かせないという想いから、「どうしたら実施できるか」を学校と相談し、創意工夫をしながら実施しました。

例えば、学年全体で集まるのではなくクラス単位で行ったり、グループワークができない部分は個人で学習を深められるようワークシートを作成したり、オンライン授業を行ったりしました。

オンラインによる
ふくし学習の様子

各学校に配布
している手引き

Ⅲ　CSWの取り組み

（1）誰でも集える居場所 社協の拠点を移転しオープン

令和３年８月、社協の活動拠点として新所沢東地区にみんなの居場所「ぴーす」を開設しました。地域福祉サポーター等の多様な関係者と協働し、高齢者の健康体操やこどもの学習支援等の活動が立ち上がりました。活動場所を探しているボランティア団体や新しく居場所づくりを考えている住民の方へスペースの貸し出しも行いました。

また、毎週火曜日の午後からはCSWが常駐し、誰でも相談できる相談窓口等を開催しました。今後は、精神障がい者の支援団体と協働し、居場所づくりを進めて行く予定です。

健康体操

こどもの居場所

（2）ヤングケアラー講演会を開催

令和４年３月、ヤングケアラーの実情や支援に向けた啓発を図り、ヤングケアラーとその家族に寄り添う体制づくりを目的に講演会を開催しました。講師に、立正大学教授 森田久美子氏を迎え、ヤングケアラーの現状や課題、住民にできる対応等の講話の他、元ヤングケアラーから体験談をお話しして頂きました。会場には民生委員・児童委員やボランティア、教育関係者等90名にお越しいただきました。

参加者からは、「地域で連携支援していくことの大切さを理解できた」「ヤングケアラーを理解することができた。」といった感想を頂き、多くの方々にヤングケアラーの置かれている状況を理解して頂くことができました。

講師の森田久美子氏の講話

元ヤングケアラーの体験談

（3）事例１　個別支援　関係機関と連携した安否確認

50 代の男性が、閑静な住宅街に居を構え、約 8 年前に妻と死別してから単身で生活していました。設計の仕事を夜間に自宅でしており、日中は休んでいるため、近隣住民との関係も希薄で、特段関わりのある関係機関などはありませんでした。　そのような状態が数年続いたある時、「本人が道をふらついて歩いている様子で気になる」との連絡が近隣住民から民生委員にありました。地域包括支援センターを通じて CSW へとつながりました。

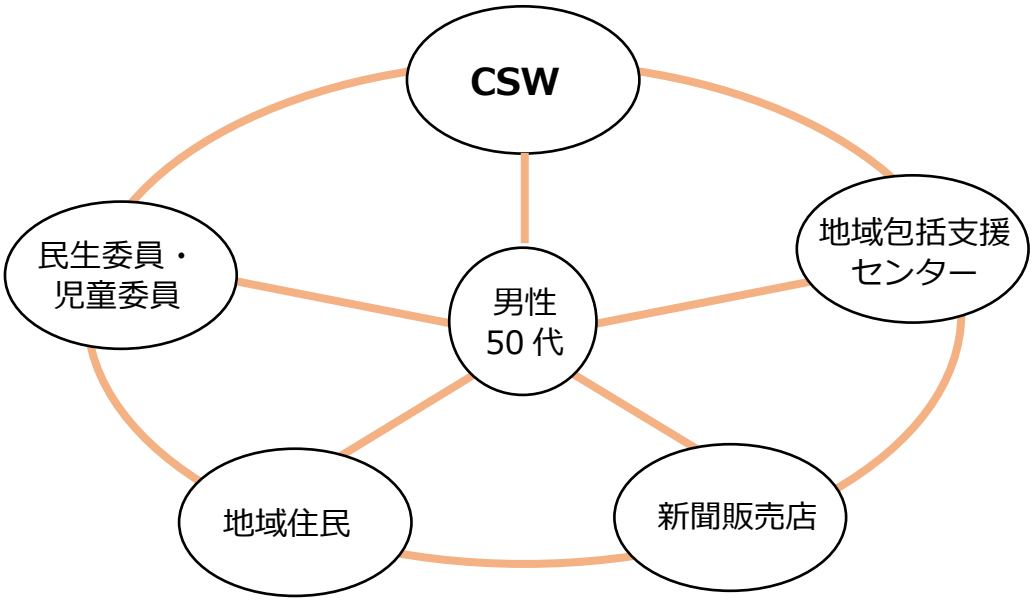
CSW が本人宅を訪れると、家のすべて窓やシャッターは閉じられ、ポストの投函物も溜まっているような状況でした。安否確認の為、近隣住民への聞き込みなど、できることを、民生委員や関係機関と協力して行いました。

CSW が新聞販売店へ問合せると、4 日前に本人が自ら新聞をしばらく止める旨の連絡を入れていたことが分かりました。

集まった関係機関同士で話し合い、本人が自ら新聞の配達の休止連絡を入れていたことが分かったことにより、解散しようと思いましたが、念の為、最後に玄関の施錠を確認したところ、玄関口が空いており本人がそこに倒れていました。すぐに救急車を呼び搬送され、一命を取り止めることができました。

日頃から、近隣住民の見守りの目や CSW と民生委員、地域包括支援センター等の密な連携が、孤独死を未然に防ぐことができました。

近所に気になる人がいる → **民生委員 関係機関 CSW の連携** → **孤独死を未然に防ぐ** → **更なるネットワークの強化へ**



（4）事例２　地域支援　地域課題に対する地域の居場所づくり

地区担当のCSWや地域包括支援センター、保健センターが、連携・協力するための情報を共有することから始めました。それぞれの専門職の立場で、課題について共有する中で、子育て世帯が孤立しやすい地域課題を捉え、「孤立している子育て世帯や地域の人たちの交流の場が、身近に必要なのでは？」と話し合ったのがきっかけでした。

実際の取り組みに向け、民生委員・児童委員、母子愛育班、地域福祉サポーター等、地域で活動する方々へ呼びかけを行い、様々な人がスタッフとして集まりました。近くの小学校の校長先生や自治会の方ともつながり持ち、地域に広く知られた居場所として実施に向け話し合いました。

課題として活動資金、実際の活動内容などが挙げられました。活動資金については、CSWから活用できそうな助成金の情報提供、活動内容については、スタッフで知恵を出し合い、親子が安心して参加できる内容を考えました。そして、CSWが中心となって、関係者と協議を重ねた結果、未就園児のいる世帯を対象とした、親子の居場所が立ちあがりました。

実際に参加された、保護者からは、「自分のこどもが人見知りをする性格だと知り驚いた」「スタッフの方々のやさしい口調にとっても癒された」「他の保護者との交流から、自分だけが大変なんじゃないと気付いた」といった感想を頂きました。このような多世代の交流は、こどもやその親だけでなく、スタッフへの活力ともなり、地域の支え合いへとつながっていきます。

関係者と地域の情報を共有 → **孤立している子育て世帯の交流の場が必要** → **関係機関・団体に呼びかけ協議** → **親子サークルの立ち上げ**

■さいごに

私たちCSWは、困っている方や孤立している方への支援や居場所づくり等を多様な関係者と協働し、ともに生きる豊かな地域社会づくりに取組んできました。コロナ禍にあっても、CSWの取組みにより、各地区で創意工夫のもと“つながり”を途切れさせないための活動が少しずつ展開してきました。

人は誰かとつながっていると感じることにより、安心感を得ることができます。多様な関係者と協働し、“つながり”を途切れさせないための活動を展開し、「地域共生社会」の実現を目指しています。

■地域アセスメントシートの更新

地域アセスメントシートは、地区の基本情報や地域特性（歴史、文化、自然環境等）、活動に取り組む中で地域が直面する課題、社会資源（地域住民・組織・団体の活動内容や状況など）や地域におけるニーズ等を各地区のＣＳＷが整理したもので、それらを踏まえつつ、CSWが地域における取り組みの中で見えてきた課題を抽出し、CSWとして今後取り組んでいきたいことをまとめました。

地域を客観的に捉え分析し、「見える化」することは、誰もが安心して暮らせるまちづくりを住民、関係機関・団体の皆様とともに検討する上で欠かせない取り組みである為、今後も継続してアセスメントシートを更新していきます。

«アセスメントシートの項目»

①基本情報（人口・高齢化率・自治会）、②どのような地域特性（歴史、文化、自然環境、産業等）か、③どのようなニーズがあるか、④どのような福祉活動（フォーマル）があるか、⑤どのような福祉活動（インフォーマル）があるか、⑥地域に「あったらいいな」と思うもの、⑦「あったらいいな」の実現のために、活用できる資源（ヒト・モノ・カネ・情報）、⑧現在取り組んでいること、見えてきた課題、⑨CSWがこれから取り組みたいこと

※次ページ以降のアセスメントシートは紙面の関係上、一部を抜粋しています。

令和３年度 CSW 地域アセスメントシート　所沢地区　令和４年３月 31 日

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】令和４年３月末現在		【高齢化率】令和４年３月末現在	
	地区全体（世帯数）	33,734 人（17,864 世帯）	市全体	27.4%
	年少人口 0～14 歳	3,692 人（11.0%）	所沢地区	21.5%
	生産年齢人口 15～64 歳	22,799 人（67.6%）	【自治会】※加入率は参考値	
	前期高齢者 65～74 歳	3,667 人（11.0%）	自治会数	14
	後期高齢者 75 歳～	3,576 人（10.6%）	自治会加入率	70.2%
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・社会的に孤立している若い世代の相談も多く、経済的困窮、疾患や人間関係や生活環境面での課題等複合的な課題を抱えていることが多い。 ・生産年齢人口が多いが、若い世代を巻き込んだ活動の展開が少ない。 ・マンションやアパートが他地区より比較的多く、住民同士の繋がりが作りづらい。 ・外国籍市民の相談が増えている。 ・コロナ禍でも、人との繋がりを求めサロン等に参加する人は多い。 【必要なニーズ】 ・困った時や相談したい時にすぐに相談につながることができる仕組みが必要である。 ・必要な情報を得られる仕組みが必要である。 ・こどもから高齢者まで多世代での交流について検討したい。 ・民生委員・町会町内会・CSW の更なる連携が必要であり、認知度の向上に努めたい。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【取り組んできたこと】 ・こども食堂や、誰でも食堂等の地域の取り組みへの支援 コロナ禍においても取り組みを続けられるような支援を必要に応じて行った。 ・フードパントリー団体への支援 フードパントリー実施団体へ向け、各種助成金情報や、社会資源との繋ぎを行った。 ・所沢地区活動拠点 コロナウイルス感染拡大防止の観点から、拠点での活動について地域福祉サポーターと模索しながら、主に緊急事態宣言期間以外は取り組みを進めてきた。緊急事態宣言期間は、拠点活動を中止しつつも、地域福祉サポーターとの情報共有や、日頃拠点に集う利用者宅への訪問活動を継続した。 拠点が移動した事により、新たなサポーターとしての拠点活動を視野に話し合いを行い、サロン活動を発足した。 【見えてきた課題】 ・住民にとって身近で地域に開かれ、多くの世代や様々な国籍の人が交流できる場の検討が必要である。 ・コロナ禍における地区内の様々な取り組みに関する情報発信が必要である。

CSW がこれから取り組みたいこと

①相談の場や見守りや支え合いの仕組みづくりの検討

地域ケア会議等で、身近なところで気軽に相談できる場があると良いという声や、自治会等から見守りや支え合いの仕組みについて検討したいという声がある。地域づくり協議会においても「とこ地区まちかど保健室」が開始となった。交流・学習・相談を柱として、交流や学習をしながら、相談を受け止められる場が出来ている。CSW としても、多年代の市民が交流できる様な支援を行いたい。

地域包括支援センターや地域の関係機関、団体等との検討が開始される等、皆で考えていこうという機運が高まっている。市民参加を活かしながら企画運営を検討したい。合わせて、所沢地区ならではの見守りや支え合いの仕組みの検討もしていきたい。

②情報発信の充実

現在、所沢地区での様々な取り組みが行われていることから、その情報を随時発信できるようにしていきたい。フードパントリーの需要が高まる中、協力団体の確保が課題となっている。CSW としても、活動の情報発信や必要な情報提供を随時行っていきたい。

若い世代が多い地区として、ホームページ等の ICT を活用した情報発信についても、検討していきたい。併せてふくし掲示板のさらなる活用も進めたい。

③地域団体、関係機関等との連携強化

所沢地区には多種多様な団体や関係機関、事業所等がある。上記２点の取り組みを進める上でも、各団体等の強みを把握し、連携強化することが欠かせない。各団体等についての情報把握を行い、コミュニケーションを積極的に図っていくことを含め、地域福祉の推進につながる連携を進めていきたい。

民生委員・児童委員、町会町内会等との連携強化を目標とし、より顔の見える関係づくりを行っていきたい。フードパントリー団体やこども食堂・誰でも食堂等の団体との連携もさらに密にし、地域の中で支える仕組みづくりの推進・連携を強化していきたい。

令和３年度 CSW 地域アセスメントシート　松井地区　令和４年３月31日

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】令和４年３月末現在		【高齢化率】令和４年３月末現在	
	地区全体（世帯数）	43,684 人（20,179 世帯）	市全体	27.3%
	年少人口 0～14 歳	5,530 人（12.7%）	松井地区	25.6%
	生産年齢人口 15～64 歳	26,983 人（61.8%）	【自治会】※加入率は参考値	
	前期高齢者 65～74 歳	5,561 人（12.7%）	自治会数	46
	後期高齢者 75 歳～	5,610 人（12.8%）	自治会加入率	55.9%
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・サロンはコロナ禍により、休止または活動場所や内容の変更・自粛している団体が多数ある。 ・高齢になると坂道が多いので買物（近くに買物のできる店がない）、通院が困難である。 ・児童館等のこどもが遊べる場所、子育ての情報収集・交換ができる場所が少ないことから、情報収集・交換ができる場があると良い。 【必要なニーズ】 ・コロナ禍においてもつながりを絶やさない取り組みや安否確認が必要である。 ・閉じこもりがちな一人暮らしの高齢者や子育て世帯がいるので、気軽に集える場所（サロン等）があると良い。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【取り組んできたこと】 ・コロナ禍の中、地域で孤立している個人・世帯（7040/8050 問題を抱えた世帯等）への訪問・安否確認等を通じて見守りや関係構築に努めた。 ・地域包括支援センターや民生委員・児童委員、病院の相談員等、関係機関と連携し、個別支援を実施した。 （松井地区社協） ・「松井ちょこっと相談」は、コロナの影響により、3 回のみの開催となった。 ・地区の 8 サロンに助成金を交付し、「サロン交流会」において、コロナ禍におけるサロン活動について意見・情報交換を実施した。1 サロンは活動できず、解散となった。 【見えてきた課題】 ・親世代が亡くなるまたは施設入所等で、他者との関りが希薄な孤立した世帯（子ども）について、情報共有を行いながら支援をしていく必要性が増えてきた。 ・地区社協として身近な地域における体験の場の提供を推進する方向性が出ているが、いかに若い世代の参加につなげていくかが課題である。 ・コロナ禍におけるつながりを絶やさない活動を各サロンが模索している状況である。また、小規模なサロンやこども食堂の立ち上げに支援が必要である。

CSW がこれから取り組みたいこと

①地域住民・関係機関と連携しての個別支援の実施

コロナ禍により、地域で孤立してしまう個人・世帯が増加しており、これまで以上に地域住民・関係機関（自治会・町内会、地区社協、民生委員児童委員、地域福祉サポーター等）との連携を密にすることで、課題を抱えている世帯の情報を収集し、課題解決に向けた働きかけを行うと同時に地域における支援の輪・見守りの意識向上を図る。

②様々な形態による身近な場所での集いの場（居場所）づくり

高齢者は閉じこもりによる体力低下、子育て世帯は養育や経済的な困窮等、様々な課題を抱えている。多世代型の集いの場が必要であり、学習支援やダブルケア、閉じこもりの方の支援の場としても活用を進めていきたい。そのためにも運営を行うリーダーとなれる方の開拓や育成も検討していきたい。

地区社協による助成先サロンについては、サロン同士の情報交換・交流や、地区社協行事への積極的な参加・協力を促し、地域のつながりづくりを進めていく。

③身近な地域におけるふくし学習の場の提供

令和３年度は「まつい福祉体験講習会」や「地区防災訓練」等が中止となり、ふくし学習・体験の場を提供することができなかった。引き続き様々な視点から、地域住民が身近な場所で気軽にふくし体験・学習をする機会を積極的に設けることにより、地域福祉や防災に関する意識の向上を図る。また、小中学校でのふくし学習（授業）への協力だけでなく、様々な取り組みに参加できるよう、積極的に働きかけを行っていく。

令和３年度 CSW 地域アセスメントシート　柳瀬地区　令和４年３月 31 日

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】令和４年３月末現在		【高齢化率】令和４年３月末現在	
	地区全体（世帯数）	18,824 人（8,978 世帯）	市全体	27.4%
	年少人口 0～14 歳	2,091 人（11.1%）	柳瀬地区	22.8%
	生産年齢人口 15～64 歳	12,437 人（66.1%）	【自治会】※加入率は参考値	
	前期高齢者 65～74 歳	2,349 人（12.4%）	自治会数	20
	後期高齢者 75 歳～	1,941 人　（10.3%）	自治会加入率	45.3%
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・コロナ禍ではあるが、地域の活動が徐々に進められている。今後、どのような活動を展開していけば良いか模索している団体が多い。 ・相談会は定着しているが、新規利用者がコンスタントに増えない状況である。 【必要なニーズ】 ・コロナ禍においてもつながりを絶やさない取り組みを継続していく必要性がある。 ・必要な情報を得られる仕組みや、困った時や相談したい時にすぐに相談につながることができる仕組みが必要であるため、様々な情報ツールを資源開発する必要性がある。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【取り組んできたこと】 ・フードパントリーを中心に立ち上げや運営に関して、地域住民や関連機関と常に話し合いながら事業展開を行った。 ・フードパントリーを通じ、困窮により学習低下しているこどもがいることがわかり、学習支援をしてくれる場作りの一端を担えることができた。 ・高齢者の孤立が当該地域でもいることが関連機関や様々な住民組織団体と意見交換していく中で浮彫りになった。そこには、情報不足で活動の場まで、たどり着くことができない、もしくはそもそも情報を知る術を知らないことがわかってきた。 情報を受け取る解決策として、高齢者向けスマホ教室を開催。他に地域福祉サポーターに協力を依頼し、ふくし掲示板の掲載充実を図った。 【見えてきた課題】 ・様々な支援や活動は、CSW が取り組むものだけではなく、多職種と連携し、情報共有し連携しながら共に広報啓発等を含めた検討が必要である。 ・コロナ禍でもつながりを絶やさない活動の展開等、各活動団体が模索していることから、活動継続に向け地域住民等と役割分担しながらできることをその時々に合わせ行うことが求められる。 ・情報発信については、ＰＣやスマホなどを使ったＩＣＴ の活用、ふくし掲示板、紙媒体の充実など、あらゆる発信ツールが必要である。

CSW がこれから取り組みたいこと

1 こども食堂等の居場所支援

コロナ禍ではあるが、今できることをやろうと３箇所でフードパントリーが昨年立ち上がった。今後、こども食堂や学習支援を行う予定もあり、地域のニーズを把握し、適切な場所に導けるよう関連機関と連携し、継続した支援に取り組んでいきたい。

②情報発信の充実と世代間交流

高齢者をはじめとして、地域の方々が様々な情報を得て、活動の場が更に広がるように、今後も「高齢者向けスマホ教室」を継続し、そこに関わるサポーターを幅広い世代から募り、世代間交流ができる居場所を作りたい。

③なんでも相談会の充実

現在、数名の相談者が定着している。今後は、一部サロン化し、新規相談者が気軽に相談できる環境について、今一度検討していく。

広報についても、ふくし掲示板の活用、様々な関係者への周知広報活動を進めていく。

令和３年度 CSW 地域アセスメントシート　富岡地区　令和４年３月31日

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】令和４年３月末現在		【高齢化率】令和４年３月末現在	
	地区全体（世帯数）	22,498 人（10,012 世帯）	市全体	27.4%
	年少人口 0～14 歳	2,091 人（9.2%）	富岡地区	32.4%
	生産年齢人口 15～64 歳	12,437 人（55,2%）	【自治会】※加入率は参考値	
	前期高齢者 65～74 歳	3,286 人（14.6%）	自治会数	18
	後期高齢者 75 歳～	4,020 人（17.8%）	自治会加入率	57.8%
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・他地区に比べ三世代で住んでいる世帯が多い。 ・高齢者人口が多い。 ・交通の便が悪く、バスが通っていない、または本数が少ない地域がある。 ・歩いていける距離にスーパーマーケットなどがない。 ・地域との関わりが希薄になってきている。 ・自分にできることはしたいと思っている人は多くいるが、支え合いには結びつきにくい。 【必要なニーズ】 ・買い物や通院等の移動手段が必要。 ・生活困窮世帯や 40 代～50 代の社会的孤立状態にある人の居場所づくりが必要。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【取り組んできたこと】 ・富岡何でも相談会 サロンの形で地域住民と顔の見える関係作りを行いながら、個別ケースや地域ニーズの発見、地域資源の発掘・開発を行うことを目的として開催している。地域住民が居場所として利用しつつ、必要に応じて生活の不安や困りごとを地域の住民と共有する場となっている。 ・居場所等の立ち上げ・運営支援 小地域での居場所づくりの相談及び立ち上げ・運営支援を行っている。富岡福祉プロジェクトと協力し、福祉のまちづくり助成金を財源としたサロン等への活動助成金を創設した。 【見えてきた課題】 ・富岡地区は東西に伸び、まちづくりセンターまで行きづらい住民もいる。 ・認知症などが進行してくると、地域のサロン・居場所等で地域住民だけでは対応しきれないとの声も上がってきている。 ・富岡地区内でも、地区によって特徴や課題が異なる。

CSW がこれから取り組みたいこと

①見守りの体制づくりと困りごとの解決に向けた仕組みづくり

2020 年度に開催予定であった、富岡福祉プロジェクトとの共催による「迷い人声掛け訓練（仮称）」を行い、日ごろの見守り体制づくりに取り組んでいく。富岡福祉プロジェクトと共催で行った認知症サポーター養成講座を踏まえ、住民同士による見守りの行い方や声掛けの仕方を学ぶ機会を作っていく。

また長期的な目標としては、見守りの体制づくりや CSW に寄せられる個別相談を通して、富岡福祉プロジェクトや自治会、ボランティア団体等との連携を行いながら、住民相互による課題解決の仕組みづくりにも取り組んでいく。

地域や自治会のつながりが強い地域だが、地縁の希薄化は進んでおり、SOS を出せず、困りごとを解決できない地域住民がいる。助けあいや見守り体制を地域の仕組みとして取り組めるようにすることで、住民同士が支えあいの関係を持ちながら生活をしていけるよう支援を行う。

令和元年からは、富岡福祉プロジェクトと協働してサロン等への活動助成金を創設した。助成金も活用しながら、地域住民同士が顔の見える関係づくりを行える居場所の立ち上げも支援していく。

②相談会の充実

生活の困りごとや不安を相談できる場の拡充に取り組む。富岡まちづくりセンターでの開催のほか、自治会公民館などの活用を検討し、地域包括支援センターや民生委員・児童委員等へも協力の呼びかけを行っていく。

また、富岡地区内は高齢者や障害者などの福祉関連施設も多く、暮らしの相談事業に参加している事業所が６ヶ所ある。福祉関連施設とも協働しながら、生活の困りごとや不安を相談できる場をつくり、地域住民が安心して暮らせるよう働きかけを行っていく。

令和３年度 CSW 地域アセスメントシート　新所沢地区　令和４年３月 31 日

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】令和４年３月末現在		【高齢化率】令和４年３月末現在	
	地区全体（世帯数）	28,596 人（14,046 世帯）	市全体	27.4%
	年少人口 0～14 歳	3,205 人（11.2%）	新所沢地区	25.2%
	生産年齢人口 15～64 歳	18,182 人（63.5%）	【自治会】※加入率は参考値	
	前期高齢者 65～74 歳	3,279 人（11.4%）	自治会数	17
	後期高齢者 75 歳～	3,930 人（13.7%）	自治会加入率	58.8%
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・西武線の始発駅の１つでもあり、都内通勤者にとって交通の便が良く利便性が高い。 ・集合住宅も多く、単身高齢者や支援が必要な高齢者も多い為、自宅に閉じこもりがちになり、孤独死が問題になっている。 ・向陽町や青葉台エリアには戸建て住宅が密集しているが、地区内でも新所沢まちづくりセンターや新所沢駅等、公共機関から遠い場所に位置している。 ・不登校のこどもが気軽に集まれる学習支援や居場所のニーズが出てきた。 【必要なニーズ】 ・コロナ禍においてもつながりを絶やさない取り組みが必要。 ・学習支援やこども食堂等、こどもが気軽に立ち寄れる居場所づくりが必要。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【取り組んできたこと】 ・CSW による（個別・地域）ニーズのキャッチとして、『ぐりーんぽけっと』における福祉なんでも相談会を実施した（毎月第３金曜日）。 ・「しんとこ福連」や「地域福祉サポーターの定例会」等、地域内の情報共有ができる場や関係機関との情報共有を行った。特に今年度は、しんとこ福連の中で地区内のちょっとした困り事を解決する「しんとこ助け合いの会」が立ち上がり、関係機関とともに後方支援を行った。 【見えてきた課題】 ・講座の参加やサークル活動など、社会参加をしている人は多いが、ボランティアの高齢化が進んでいる。 ・比較的若い世代も多い地区ではあるが、若い世代の地域参加が少なく、CSW ともつながれていない。 ・地域住民に対して、CSW の取り組みについての周知が不足している。 ・学習支援を取り組みたいと希望する声は上がるものの、場所の確保が課題になっている。

CSW がこれから取り組みたいこと

①　助け合い活動を通じた地域の協力体制の推進

令和 2 年度から、ちょっとした困りごとに対応できる支え合いのしくみづくりとして、「(仮称)しんとこ支え合いを考える場」の話し合いを重ね、令和 3 年度には、仮発足という形で、「しんとこ助け合いの会」ができ、実際に住民からの依頼を受けている。今後は、まちづくり協議会や地域包括支援センター等関係機関と協力しながら、会へのサポートを強化し、地域住員同士の助け合い体制を推進していきたい。

②　若い世代の「担い手」の発掘・育成

地域の支え合いについて関心を寄せ、その担い手となる人材を様々なネットワークを活かしながら、発掘していくとともに、地域福祉活動に参加するきっかけづくりに取り組んでいきたい。特に若い世代が参加しやすい工夫（情報発信の方法や関心のあるテーマ等）を盛り込んでいきたい。

③　こどもの居場所の推進

現在、新所沢地区には、こどもの学習支援やこども食堂等が気軽に立ち寄れる居場所が少ないため、こどもの居場所づくりを推進していきたい。地域福祉サポーターや関心のある方、地域の関係者の方々と一緒に、話し合いから始めていきたい。

令和３年度 CSW 地域アセスメントシート　新所沢東地区　令和４年３月31日

担当地域（地区）の状況

	【人口（割合パーセント）】令和４年３月末現在		【高齢化率】令和４年３月末現在	
基本情報	地区全体（世帯数）	17,035 人（8,470 世帯）	市全体	27.4%
	年少人口 0～14 歳	2,128 人（12,4%）	新所沢東地区	25.2%
	生産年齢人口 15～64 歳	10,833 人（63,5%）	【自治会】※加入率は参考値	
	前期高齢者 65～74 歳	1,947 人（11.5%）	自治会数	8
	後期高齢者 75 歳～	2,087 人（12.3%）	自治会加入率	62.7%

どのようなニーズがあるか

【現状】
・住民の高齢化に伴い、つながりや見守りが重要になってきているが、閉じこもりを防止するために、地域活動への参加を促しても、参加が少ない。
・高齢者のサロンのように気軽に集まることのできる居場所が少ない。
・戸建てが多く、子育て世代や若い世代が多い為、地区内でも子育てサロンや学習支援が充実している。
・コロナ禍のため、地区内の行事は中止が多く、活動に制限がある。

【必要なニーズ】
・地域住民同士が交流をするためにも、地域の中にちょっと立ち寄れて、気軽におしゃべりができるような場所（サロン）多世代で交流できる場が必要である。
・高齢者にかかわらず、地域で見守り合えるしくみづくりが必要である。

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【取り組んできたこと】 ・しんとこイーストネットとの連携 高齢者いたわり部会では、住民の集まる場面において、CSW の活動や役割について周知を行った。また、こども健全育成部会では、地区内のこどもの居場所の状況の報告を行った。 ・社協の拠点が新所沢東地区に移ったため、拠点の運営や拠点で活動する団体の支援を行った。 ・「フードパントリー」の立ち上げ支援。 ・車いすステーションの増設。 【見えてきた課題】 ・元気な高齢者は複数の活動に参加しており、地区外にも出掛けている。一方、地域との接点を持ちたくない方や閉じこもりがちな高齢者も多い。声をかけても外に出ない方をどのようにして地域とのつながりを持つかが、課題となっている。 ・こどもの居場所が増えてきた反面、高齢者のサロンのように気軽に集まることのできる居場所が少ない。こどもから高齢者まで、自由に集えるような居場所づくりが必要。

CSW がこれから取り組みたいこと

① 社協拠点（みんなの居場所「ぴーす」）の活用

▪ CSW による居場所づくり

地域住民のつながりをつくるためにＣＳＷを中心に分野を問わず、多世代が集えるような居場所づくりを行う。地域福祉サポーターや民生委員等、地域の関係者にも呼び掛け、居場所づくりの運営を行う。

▪ 拠点活用団体の支援、拠点の周知

拠点を活用する団体のサポートを行いつつ、地域の団体や地域の方へ拠点についての周知を継続して行っていきたい。

② 地域団体や関係機関等との連携強化

地区内の様々な会議を通して、地域の関係機関等と定期的に情報共有の機会を設け、地域のニーズ把握や連携できる部分を整理していく。また、引きつづき地域の団体にも足を運び、連携を深めていきたい。

③ CSW の周知

地域のサロンやイベント等に出向き、CSW について広めていきたい。
また、CSW 紹介のチラシ等を作成し、まちづくりセンターや包括支援センター等公共機関に配架していただき CSW についての周知を強化させ、困り事を抱えている方が、気軽に相談ができるようにしていきたい。

令和３年度 CSW 地域アセスメントシート　三ヶ島地区　令和４年３月 31 日

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】令和４年３月末現在		【高齢化率】令和４年３月末現在	
	地区全体（世帯数）	40,816 人（19,487 世帯）	市全体	27.4%
	年少人口 0～14 歳	4,423 人（10.8%）	三ヶ島地区	31.8%
	生産年齢人口 15～64 歳	23,422 人（57.3%）	【自治会】※加入率は参考値	
	前期高齢者 65～74 歳	5,860 人（14.3%）	自治会数	17
	後期高齢者 75 歳～	7,121 人（17.4%）	自治会加入率	60.6%
どのようなニーズがあるか	【三ヶ島第一地区（三ヶ島、和ヶ原、林、西狭山ヶ丘)】 【現状】 ・狭山ヶ丘駅から遠く、車がないと移動や買い物など交通アクセスが不便である。 ・毎年、大半の自治会・区で会長が入れ替わるため、自治会・区への働きかけが課題である。 ・ボランティア団体が数多くあり、団体同士の協力関係が充実している。 ・令和 3 年 4 月から新たに地区を循環するところワゴンが行政サービスとして導入している。 【必要なニーズ】 ・地域内で生活に悩みを抱える人が何でも話せる集いの場の提供が必要である。 ・フードパントリーを継続的に実施していく為、食料提供拠点の創出が必要である。 【三ヶ島第二地区（東狭山ヶ丘、狭山ヶ丘、若狭)】 【現状】 ・狭山ヶ丘駅周辺は転入者が多く、隣近所との関係も希薄で、自治会加入率も低い。 ・地域で孤立している高齢者や障がい者、子育て世代への支援が課題である。 【必要なニーズ】 ・地域とのつながりや顔が見える関係を築ける居場所や活動場所の確保が必要である。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【取り組んできたこと】 ・空ちゃん和ヶ原　こども食堂 コロナ禍で、通常の開催が困難なため、スタッフ間で議論を重ね、意見交換を行ってきた。 ・地域福祉部会 コロナ禍ではあったが街頭募金運動等を行い、地域のささえあい活動について検討した。 ・よってくらっしぇ相談会（毎月第４水曜日） 狭山ヶ丘コミュニティセンターを利用し、出張相談を行っている。入り口付近ロビーに相談窓口を開設することで、施設利用者から相談につながることも多い。相談件数も一定数あることから周辺地域から認知されていることが分かる。 【見えてきた課題】 ・フードパントリーに協力できる人材を発掘する必要がある。 ・生活に悩みや不安を抱えている人が、地域の中で相談ができるささえあいのしくみ作りを推進することが必要である。

CSW がこれから取り組みたいこと

①新たな地域福祉部会の始動

今年度の話し合いのなかで、第１地区と第２地区で課題の程度が異なることから、これまでの部会の形は残し、新たに課題検討を行う実行グループをそれぞれの地区ごとに立ち上げた。

来年度はそれぞれの地区ごとに課題検討ができるようになり、少人数で活発な意見交換ができるよう支援していく。

②悩み事や困り事を地域で共有できる場づくり

地域で生活に不安や悩みを抱える方から、相談を受けることが少なくない現状を踏まえ、地域の中で不安や悩みを共有できる場（カフェ）づくりを行う。

これにより、地域で孤立している世帯が悩みを一人で抱え込まないよう地域とともに支援する。

②笑顔でごはんフードパントリーの協力団体の発掘

「空ちゃん和ヶ原こども食堂」は 13 区自治会館を拠点としてこども食堂をしていたが、会館が密になり使用できないため活動をこどもの居場所として活動中である。また、フードパントリーを希望するような世帯の情報が関係機関等から入ってこないため、実施に至っていない。実施に至るような糸口がないか関係者と相談していく。

令和３年度 CSW 地域アセスメントシート　小手指地区　令和４年３月 31 日

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】令和４年３月末現在		【高齢化率】令和４年３月末現在	
	地区全体（世帯数）	49,734 人（23,214 世帯）	市全体	27.4%
	年少人口 0～14 歳	6,068 人　（12.2%）	小手指地区	26.3%
	生産年齢人口 15～64 歳	30,596 人　（61.5%）	【自治会】※加入率は参考値	
	前期高齢者 65～74 歳	6,385 人　（12.8%）	自治会数	68
	後期高齢者 75 歳～	6,685 人　（13.4%）	自治会加入率	56.7%
どのようなニーズがあるか	【小手指第一地区(上新井、小手指元町、小手指南、小手指台、北野、北野南、北野新町、小手指町５丁目)】 【現状】 ・地区面積が広く、地域の特性を考慮しながら小地域単位で支え合いを検討する必要がある。 【必要なニーズ】 ・小地域を単位とした支え合いの活動の推進。 【小手指第２地区(小手指町 1～4 丁目)】 【現状】 ・駅前の立地とマンションが多く、コロナ禍もありこれまで地域活動に活用されていた集会室が使用できず活動が休止するケースもあった。 【必要なニーズ】 ・マンション単位の支え合い活動の継続。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【取り組んできたこと】 ・小手指地区相談会『談話室こてまる』 令和３年度は緊急事態宣言中に２回中止したが、10 回の開催で 21 件の相談があった。小手指第１地区民生委員等への認知度も上がり、個別支援についても連携して検討ができた。他にも介護やボランティアの相談が寄せられた。 ・『椿の茶の間』の活動支援 小手指南地区の居場所『椿の茶の間』はコロナ禍の中で参加人数を分散するなどして対応してきた。また、今年度は昨年度取り組むことができなかった多世代交流事業として七夕のイベントを行い、約 20 名の親子が参加した。 【見えてきた課題】 ・小手指南地区椿峰エリアの高齢化 現在『椿の茶の間』を実施している小手指南地区の中でも、特に椿峰エリアは高齢化が３０％以上と小手指地区の中でも進んでおり、地域での支え合いの場の必要性を住民の方も感じている。今後包括支援センターと連携して検討していくと同時に、生きがいづくりの場を検討していくことで地域の活性化につながると考える。

CSW がこれから取り組みたいこと

①地域の相談に対する他職種連携の強化

相談者による直接の相談や民生委員を経由した相談に対して、ＣＳＷとしてしっかりアセスメントを行うことで相談者の問題・課題を把握すると共に、その課題に対し必要に応じて他職種との連携を行うことで相談者の問題・課題に対応していく。

②椿峰エリアの子育て支援を通じた多世代交流づくり

今年度『椿の茶の間』で実施された多世代交流イベントなどを継続していくと共に、乳児を対象とした子育て支援の場を通じた多世代交流づくりを住民・保健センター・地域包括支援センター・社協が連携して行い、高齢化率の高い椿峰地区での地域住民の生きがい活動に繋げていく。

③誰もが気軽に相談できる場づくりの継続

小手指第１地区民生委員との連携も含め、小手指地区の方が気軽に社協に相談できる場所として、相談会「談話室こてまる」は今後も継続していく。昨年度までは相談会のエリア外になっている小手指第２地区民生委員の方との連携が、定例会の出席などを通じて個別ケースなどの対応について少しずつ図れるようになった。今後も連携を継続していくと同時に小手指第２地区でも気軽に相談できる場所の検討を行う。

令和３年度 CSW 地域アセスメントシート　山口地区　令和４年３月31日

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】令和４年３月末現在		【高齢化率】令和４年３月末現在	
	地区全体（世帯数）	28,468 人（13,141 世帯）	市全体	27.4%
	年少人口 0～14 歳	3,043 人（10.6%）	山口地区	32.1%
	生産年齢人口 15～64 歳	16,282 人（57.1%）	【自治会】※加入率は参考値	
	前期高齢者 65～74 歳	4,494 人（15.8%）	自治会数	36
	後期高齢者 75 歳～	4,649 人（16.3%）	自治会加入率	50.3%
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・担い手の高齢化、人員不足により、10 年以上続いていた住民主体の活動「買い物定期便」が解散した。「とくし丸」の利用が進んでいるが、買い物難民の課題は残っている。 ・民生委員や近隣住民から、生活困窮や引きこもりの相談が多く寄せられた。また、ごみ問題や動物の多頭飼い等の近隣トラブルの相談も増加している。 ・「とこパン・山口」が毎月第４木曜日に実施しているフードパントリーは、学校でのチラシ配布や関係機関の周知により、利用者が増加している。 【必要なニーズ】 ・高齢者が安心して暮していくための生活支援サービスの拡充が必要。例えば、買い物や通院に便利に使える交通手段や、ICT 活用促進のためのサポート等。 ・地域活動の縮小や中止が相次ぎ、再開に向けて、助成金の情報提供等サポートが必要。 ・多様化、複雑化する地域の問題に対して、民生委員や関係機関と連携し、身近な場所で気軽に相談できる場の周知と環境整備が求められる。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【取り組んできたこと】 ・さわやか談話室（なんでも相談会） 第２・４火曜日の午前中に山口まちづくりセンターの一室で開催。地域福祉サポーターと CSW が運営し、民生委員や地域の人からの相談に対し、助言や情報提供を行った。 ・地域福祉サポーター定例会（再開） コロナ禍において中止していたサポーター定例会を再開し、意見交換や福祉制度の活用方法等について話し合いの機会を設けた。 ・地域福祉研修会 「地域福祉」をテーマに「ふだんのくらしのしあわせ」を考える講演会を行った。 【見えてきた課題】 ・地域福祉サポーターのフォローアップ コロナ禍において定例会が実施されなかったことや、活動の目的が見えづらいためか、活動継続の意向調査では 10 名近いサポーターが辞退している。サポーターへの定期的なコンタクトや気軽に相談できる関係づくりが必要だと思われる。 ・福祉人材の掘り起こし 福祉研修会やサポーター定例会を通じて、福祉に関心があり、活動に前向きな人材が多く存在していることが分かった。人材を必要としている団体への丁寧なマッチングで多くのボランティアが生み出せる可能性がある。

CSW がこれから取り組みたいこと

①上山口地区に福祉活動拠点をつくる

山口地区は、まちづくりセンターや椿峰コミュニティ会館などを中心にさまざまな市民活動が行われているが、東西に長く坂道が多いため、それらの拠点から遠く離れたところでは、活動に参加、交流することが困難な現状がある。これは、高齢者や障害者、小さな子供のいる世帯等、交通弱者にとって、社会参加を阻害する大きな要因である。身近な場所に気軽に集まれる福祉拠点を設けることで、地域活動を活発にし、人と人とのつながりを生み出す機会を創出できると考えている。

具体的には、活動の拠点が少ない上山口地区で、こども食堂やフードパントリーの開催、閉じこもりがちな人が気軽に立ち寄り、相談できる福祉拠点を作り出せないか、上山口地区の民生委員や地域福祉サポーターと一緒に考えているところである。

②こども食堂の再開など、こども支援のバックアップ

コロナ禍において、こども食堂の開催が難しい状況が続いた。フードパントリーでひとり親世帯に食料品を配布し、つながりを絶やさないように工夫したが、子供の顔が見えない、声が聴けない状況に支援する団体からも心配の声が上がっている。今後、感染症が下火になればこども食堂を開催する団体が増えてくることが想定されるので、感染予防のノウハウの提供や助成金の活用などで活動団体を支えていきたい。

また、子育て支援ネットワークでは、まちづくり推進協議会の支援を得て、子育てマップを作製した。令和４年度ではイベントを開催して、未就学児とその親が地域で安心して子育てができるよう、交流の機会を設けたいと考えている。

③地域福祉サポーターの活動支援

地域福祉サポーターの定例会再開により、多くのサポーターが再び熱意を取り戻し、自分にできることがないか、と役割を探している。

福祉掲示板の張替えの他にも、地域のボランティアのニーズとマッチングすることによって、地域で活き活きと活動したいというサポーターのニーズを充足するとともに、地域活動の担い手不足にも貢献ができるのではないか、と考えている。

令和３年度 CSW 地域アセスメントシート　吾妻地区　令和４年３月31日

担当地域（地区）の状況

基本情報	【人口（割合パーセント）】令和４年３月末現在		【高齢化率】令和４年３月末現在	
	地区全体（世帯数）	37,257 人（18,353 世帯）	市全体	27.4%
	年少人口 0～14 歳	4,100 人（11.0%）	吾妻地区	25.7%
	生産年齢人口 15～64 歳	23,577 人（63.2%）	【自治会】※加入率は参考値	
	前期高齢者 65～74 歳	4.655 人（12.5%）	自治会数	11
	後期高齢者 75 歳～	4,925 人（13.2%）	自治会加入率	62.4%

どのようなニーズがあるか

【現状】
・地区面積が広く、全体で一つのことに取り組むのは難しい。
・まちづくりセンターへアクセスの悪い地域は子育て支援などイベントに参加しにくい住民も多く、地域で集まることができる場所も少ない。

【必要なニーズ】
・吾妻まちづくりセンターが遠い住民にとっては近くで交流できる場所が欲しい。
・フードパントリーを希望する世帯があるが、現状として地区内での実施がないため、他地区を案内している。地区内での実施できると良い。

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【取り組んできたこと】 ・北秋津地区母子の居場所作り 北秋津地区は吾妻まちづくりセンターからも距離が遠く、子育て支援行事の参加が難しい一方、高層マンションが次々にできていることから子育て支援が必要な世代が多く住んでいる。その状況を踏まえ保健センター・吾妻地域包括支援センター・民生委員・主任児童委員などで話し合いを行い、北秋津地区の母子居場所作りを進めた。 ・地域活動を行う住民を絡めたふくし学習 北秋津小学校で地域福祉活動者（民生委員・スクールガード・こども食堂）にふくし学習に参加していただき、こどもたちに地域の支え合いについて学ぶ機会を設けた。 【見えてきた課題】 ・地域活動の『担い手』不足 居場所作りやフードパントリーにあたって活動参加の声かけを行ったが、活動協力・参加はしたいが代表等の役割を持つことへの抵抗が多く、なかなか担い手が見つからない。 ・活動場所についても、無料で活用できる場所が少ない。 ・こどもたちのふくしへのイメージに『身近な支え合い』といった考えはまだまだ浸透していない状況である。

CSW がこれから取り組みたいこと

①子育て支援を通じた多世代交流の場づくり

北秋津地区母子の居場所作りについては令和３年 5 月の初回開催を目指して開催場所・助成金などの準備を進めている。新型コロナウイルス感染拡大の状況により今後の変更も考えられるが、地域に住む母子を支える担い手を地域の中から発掘し、最終的に世代交流・支え合いができるよう関係機関とも調整を進め居場所の活動を推進する。

②地域福祉活動の担い手の発掘・育成

吾妻地区のこども食堂は現在北秋津地区にある『とんぼハウス』の一カ所のみである。社協だより『ちゃお』の反響などから、地域のこどもを支援したい声が多いが、実際に身近な場所に子ども支援を実施することができていないのが現状となっている。こども食堂に限らず、地域福祉活動の担い手を地域から発掘し活躍してもらうため、講習・話し合いなどを生きがい活動などと絡める意味も含め地域包括支援センター等と連携してすすめる。

③地域住民の力を生かしたふくし学習の取り組み

実際にふくし学習として訪問した小学校が２校・新型コロナウイルスの影響で訪問はできなかったものの貸出備品等で関わった小学校が１校と地域の中でふくし学習を積極的に取り入れた地区となっている。

その中でふくしが自分たちの生活の中で身近なものになるよう、北秋津小学校で実施した「地域住民による活動紹介などを授業に取り入れること」を他の学校にも提案していく。

令和３年度 CSW 地域アセスメントシート　並木地区　令和４年３月31日

担当地域（地区）の状況				
基本情報	【人口（割合パーセント）】令和４年３月末現在		【高齢化率】令和４年３月末現在	
	地区全体（世帯数）	23,254 人（12,040 世帯）	市全体	27.4%
	年少人口 0～14 歳	2,405 人（10.3%）	並木地区	35.0%
	生産年齢人口 15～64 歳	12,729 人（54.7%）	【自治会】※加入率は参考値	
	前期高齢者 65～74 歳	3,494 人（15.0%）	自治会数	24
	後期高齢者 75 歳～	4,626 人（19.9%）	自治会加入率	57.9%
どのようなニーズがあるか	【現状】 ・一人親家庭で親の帰りが遅い家庭が多い。 ・高齢独居で日々孤食であるため、食事に無頓着になりがちの方が多い。 ・困窮・高齢・多国籍・母子など、生活上の課題が多い世帯が多いため、地域での支え合いに目を向けることが難しく、ボランティア活動者が不足している。 ・30～50 代で働くことができない人や引きこもりの人は地域で孤立しがちである。 ・体操教室が多く活気のある方が参加できる場所はあるが、虚弱の方、ゆっくり過ごしたい方は参加しづらい。 【必要なニーズ】 ・毎日通えるこども食堂や、多世代で食事ができる場所が必要である。 ・30～50 代が参加しやすい居場所を作りたい。 ・ゆっくりおしゃべりができ、自分のペースで過ごせるサロンが必要である。			

	内容
現在取り組んでいること、見えてきた課題	【取り組んできたこと】 ・ぽかぽか広場並木８丁目（毎月第２・４木曜日 16：30～20：00 サロン幸福亭ぐるり）：こども食堂として続けてきたが、コロナ禍の中でフードパントリーに変更して開催している。 ・ぽかぽかスカイ（毎月第２・４水曜日 10：30～14：30 スカイマンション A 棟 103）地域住民からの情報があり、学校に行けない不登校のこどもの昼間の居場所づくりとしてスタートしたが、現在は「誰でも参加できる居場所」として開催している。 ・CSW による相談会：毎週月曜日 13：30～15：30　サロン幸福亭ぐるり 毎週水曜日 13：30～15：30　スカイマンション A 棟 103 【見えてきた課題】 ・ぽかぽか広場並木８丁目：フードパンリーに変更してからはこどもとゆっくり話をできる場がなくなり、日頃の様子を確認することが難しくなっている。 ・CSW による相談会：決まった方しか来ないため、ニーズキャッチに限界がある。こぶし町や並木２・３丁目でのニーズを拾えない。 ・見守り：自治会等や民生委員、関係機関でも把握していない方の孤立死が発生している。

CSW がこれから取り組みたいこと

①こども食堂・多世代型食堂の立ち上げ・運営支援

並木地区では、こども食堂や多世代型食堂が３か所立ち上がっており、利用希望者が増加傾向にある。特に、ぽかぽか広場並木８丁目については会場の受け入れ人数の関係から、活動の拡大や新たな活動団体の立ち上げを検討する必要がある。

また、現状コロナ禍の中でこども食堂として活動が難しい中で、フードパントリーからこども食堂への切り替え時期なども検討していく必要がある。

②見守り活動の検討

自治会や生活支援の組織がある地域でも孤立死が発生している。生活支援組織の件では、活動者が、本人に家庭の庭の草木が伸び放題であったために声掛けをしたところ拒否をされ、その後関わりを持てずにいたところ、1 年後に孤立死が発覚した例がある。声をかけたときに、困りごとの相談先の情報が伝わっていれば、孤立死を防ぐことができたかもしれないと思われる。また、自治会の件では、自治会で作成している居住者リストから漏れている住民が孤立死したケースがある。関係機関が見守りをしている方であれば、連携することで防げた可能性もある。民生委員や地域包括支援センター、生活支援組織等の関係機関と協力をしながら、一緒に訪問するなど、見守りの体制づくりを検討していく。

③CSW の周知

サロンや健康体操など地域の居場所に多く参加をし、地域の方々との関係形成を図っていくことで CSW の周知につなげていきたい。そして、困りごとを抱えている本人や、周囲の心配してくれている人に対し、相談会などに気軽に立ち寄ってもらえるようにしていきたい。

わたしのまちの

相談窓口

（コミュニティソーシャルワーク担当）

松井地区 070-2173-0221	吾妻地区 070-3876-0225	新所沢東地区 070-3876-0229
富岡地区 070-3876-0222	柳瀬地区 070-3876-0226	所沢地区 070-3876-0230
小手指地区 070-3876-0223	三ヶ島地区 070-3876-0227	並木地区 070-3876-0231
山口地区 070-3876-0224	新所沢地区 070-3876-0228	

受付時間　８：３０～１７：１５（土・日・祝を除く）

所沢市社会福祉協議会　地域福祉推進課

住　所：所沢市泉町 1861-1
　　所沢市こどもと福祉の未来館３階
電　話：０４－２９２５－００４１
ＦＡＸ：０４－２９２５－３４１９
メール：0041m@toko-shakyo.or.jp